

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動	指導上の留意点	評価の観点	
8	1幼児の生活と遊び	A (2) ア (ア) , (2) ア (イ)	①わたしの成長をたどる	・自分の成長をふり返り、幼児期の特徴を理解する。	・教科書P20~21やワークシートを使って、生まれたときの様子や幼児期のエピソードを家族や自分を知っている大人から聞き取り、まとめる。【1時間】	・自分の成長をふり返り、幼児に関心を持って学習するための動機づけとする。	・興味を持って写真をながめ、自分の幼児期に照らし合わせている。(関)
			②幼児の体の発達	・幼児の体の発達の特徴を知る。		・身体の発育や運動機能の発達の概要について理解できるようにする。 ・発達の方向性や順序性とともに、個人差があることを理解できるようにする。	・幼児の体の発達の特徴を理解している。(知)
			③幼児の心の発達	・幼児の心の発達の特徴を知る。		・心の発達には順序性とともに、個人差があることを理解できるようにする。 ・情緒は生活の中で刺激を受けて発達することや、言葉の発達が社会性の発達に大きく影響することに気づかせる。 ・言葉や情緒や社会性の発達には周囲の人の話しかけや接し方が大きく影響すること、言葉は人間関係を深め、知的発達のもとになることを気づかせる。	・幼児の心の発達の特徴について理解している。(知) ・幼児の成長や生活と家族や周囲の人びとに支えられていることに気づき、まとめられる。(関)
			④幼児の心身の発達と家族の役割	・幼児の生活の特徴を知り、家族の役割について理解する。		・幼児の1日の行動表を見ることからいろいろな生活行為がわかり、生活習慣を身につける大切さがわかるようにする。 ・家族や周囲の人びとのかかわりの中で生活習慣の形成がなされたことに気づかせる。	・基本的な信頼関係や生活習慣の内容を理解し、生活習慣を身につける大切さを理解している。(知) ・幼児の成長や生活は家族や周囲の人びとに支えられていることに気づき、家族や周囲の人びとの役割の大切さを理解している。(知)
			⑤子どもの成長と地域	・子どもの成長と地域のかかわりについて理解する。		・子どもの成長には親や家族だけでなく、地域社会全体がかかわっているという意識をもたせたい。	・子どもの発達を支えるために地域の施設や行事があり、それを支える人びとがいることに関心をもっている。(関) ・子育て支援の必要性について理解している。(知)
			⑥幼児の遊びと発達	・幼児の遊びの特徴に気づくとともに、幼児の遊びの意義について理解する。		・幼児が行う様々な活動を通して、自分の気持ちをコントロールすることも学んでいる。幼児にとって生活そのものといえる遊びからさまざまなことを学んでいることに気づかせる。	・幼児は遊びの中や人とのかかわりの中で育つことや、幼児の遊びの意義について理解している。(知)
			⑦幼児の遊びを支える	・幼児の遊び道具の役割や遊びを支える環境について考える。		・遊び道具があることで、幼児の遊びが発展する例などをあげ、遊び道具の中にある児童文化財の良さにも気づかせる。 ・遊びを支える空間の中心的な要素として自然、広場、道というスペースが遊び場となっていることに気づかせる。	・遊び用具の役割を理解している。(知) ・遊びを支える環境の重要性に気づいている。(関)
	A 家族・家庭生活		①ふれ合い体験の前に	・幼児とふれ合うことのねらいや学習内容を知る。 ・幼児とのふれ合いに関心を持ち、幼児の発達と生活について、自分の課題を見つける。 ・自分の課題に沿って、幼児とふれ合うための具体的なかかわり方を考え、工夫する。	・VTRを見せて、幼児とのふれ合いへの期待をもたせるようにする。 ・幼児と楽しいふれ合い体験ができるように、マナーや安全面の留意事項を確認させる。	・幼児との交流に意欲をもって取り組もうとしている。(関) ・幼児の生活について課題を設定することができる。(工) ・幼児の発達に応じたかかわり方を工夫しようとしている。(工)	

8	2 幼児とのふれ合い	②ふれ合い体験をする	A (2) イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児に関心をもち、適切にかかわる。</li> <li>・ 自分の課題をもって、幼児の発達状況に応じたかかわり方を工夫し実践する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学生として、しっかりとした態度やマナーを心がけるよう声かけをする。</li> <li>・ 行動計画に沿って交流しているか見守る。</li> <li>・ 危険な場合は注意し、制止する。 〔感染症対策のために実習が困難な場合〕</li> <li>・ 幼児と触れ合う活動は困難である可能性が高いため、視聴覚教材やロールプレイングなどを活用し、関わり方の工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題解決に向け、幼児に関心もち、適切にかかわろうとしている。(関)</li> <li>・ 幼児の発達や状況に応じて接し方や話し方、遊びなどを工夫しながら交流をしている。(工)</li> </ul>
		③ふれ合い体験のふり取り		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ お世話になった先生や幼児にふれ合い体験の感謝の気持ちを伝える。</li> <li>・ 幼児とのふれ合い体験から、自分の課題への取り組みと成果をまとめる。</li> <li>・ 幼児との交流をふり取り、実践の成果と課題について学んだことを共有する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児との交流を通して、課題についてわかったことや感じたこと、自分の心の変化などを自分の言葉で素直に書くよう助言する。</li> <li>・ 幼児とのふれ合い体験の中で工夫できた話し方や接し方、遊びなど、かかわり方の工夫についてまとめられるよう支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の課題について、観点に基づいて、観察したことを整理することができる。(技)</li> <li>・ 幼児とのふれ合い体験の実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。(工)</li> </ul>
1.5	3 これからのわたしと家族	②これからのわたしと家族との関係		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これからの自分と家族のかかわりや自分の生活に関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書P12~13を参考に、自分の「未来設計図」を作ってみたり、40歳の自分に手紙を書いたりする。【1時間】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族がどのように変化をするのか、年表を参考に考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族関係の変化を理解できる。(知)</li> <li>・ 自分と家族のかかわりや自分生活に関心をもっている。(関)</li> </ul>
		世代を超えた人びとと交流して		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭生活と地域とのかかわりについて考える。</li> <li>・ 人びとと協力しながら行動することの大切さがわかる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の活動を通して協働することで、誰もが個性や能力を発揮し、生きやすい社会につなげていくことを意識させる。</li> <li>・ 3つの事例のキーワードを上げ、具体的な活動を理解する。①世代間の活動、②ワーク・ライフ・バランス、③スローライフ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し合いを通して、地域の人びととのつながりの大切さに気づくことができる。(関)</li> <li>・ 家庭生活が地域の人びととのつながりの中で成り立っていることを理解している。(知)</li> </ul>